

沖縄県では、はしかにより1998年から2001年までに9人の幼い命が失われたことで、沖縄県はしかゼロプロジェクトが結成され、1例ずつ発生を確認する体制を作り上げています。

その結果、03年と10年から現在まで、はしか発生ゼロを確認しています。国全体でも07、08年に1万人を超える流行がありました。はしかの予防接種を2回にし、対象者を拡大したことではしか発生は急速に少なくなりしました。
しかし、ヨーロッパで起きているように接種率が下がる



英宏 端 濱

論壇

とはしか流行が再び起きる可能性があり、今後も95%以上の予防接種率を維持する必要があり、成人の風しん脳炎も発症しています。かつて男性に種にははしか・風しん混合(MR)ワクチンが使われま

予防接種の効果と副反応

死亡率減、発病・発症抑制

が流行しています。

沖縄県はかつて400人を超える難聴などの障がいを持つ先天性風しん症候群児を経験した歴史があります。風しんは、赤ちゃんだけの病気でなく、時に脳炎を起こす感

染症です。残念ながら障がいを持った赤ちゃんが生まれており、成人の風しん脳炎も発症しています。かつて男性に種にははしか・風しん混合(MR)ワクチンが使われま

は風しん予防接種がなく、そのため現在の風しん患者は20代以上の男性が多くを占めて

います。風しん予防接種はMRワクチンを用いて20代以上

の男性だけでなく、女性も接種を受けていただきたいと思

います。ただし、接種を受けた女性

は接種後数カ月間は妊娠を避

ける必要があり、また妊娠中は接種ができません。那覇市など接種費用の一部を助成している市町村もあります。

ヒブ・肺炎球菌ワクチンも非常に効果的です。脳障がい

を起す細菌性髄膜炎のヒブ髄膜炎は、昨年、沖縄県で初めて発生ゼロでした。肺炎球菌髄膜炎はワクチン株以外が多

くを占め、ヒブ、肺炎球菌の菌血症の発生は3分の1に減少しました。

ヒブ・肺炎球菌ワクチンは一時、同時接種後の死亡が報告されましたが、ワクチンが原因ではないとして継続されました。これは接種対象者が乳幼児突然死症候群の発症年

齢と一致しているため、接種再開後も死亡率の上昇がなく安全性が確認されています。子宮頸がんワクチンの副反応も報道され、定期接種のままですが、しばらくは積極的に勧めないとなりました。

このワクチンはWHOも勧めており、世界100カ国以上で使用され、これまでも調査・検討されており、中止になつた国はありません。

この予防接種の副反応は、ワクチンではなく若い女性に接種されることが一番の原因と考えています。今後の調査を待ちたいと思います。

(沖縄県小児科医会副会長)